

（2）「深い学び」と「見方・考え方」を通して、「見方・考え方」を育成する

資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とを通して、「見方・考え方」を育成する。この「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもつている知識及び技能と組み合わせながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするため重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働きかけることを通じて、より質の高い深い学びを実現する授業の実現に向けてどのような授業改善等につなげることが求められる。この、「見方・考え方」とは何か、どうか自身を評価の対象とするものではある。「見方・考え方」は、「深い学び」と定義されている。言い換えるれば、これまでの類似の概念が用いられてきた各教科等には、それぞれ学習対象があるが、その学習対象にどのようにアプローチしてどのような視点や考え方で捉えるのかという教科等の本質に迫るために視点や考え方が「見方・考え方」である。従来から数学や理科などの一部の教科においては、その学習対象にどのようないくつかの視点や考え方で捉えるのが、今回の学習指導要領では、そうした整理とは別に、全ての教科について、再整理している。

（1）「見方・考え方」とは何か

（2）「深い学び」と「見方・考え方」の関係

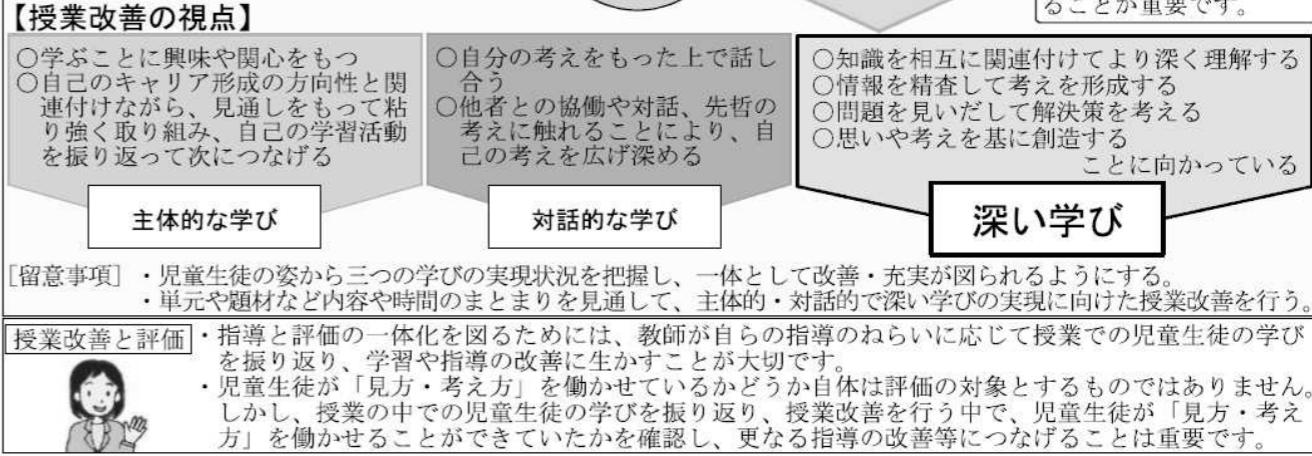
（3）「見方・考え方」と資質・能力の関係

（4）「見方・考え方」と当該教科等を育む意義

単元（題材）及び授業構想のポイント

資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

各教科等において目指す資質・能力を育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることが大切です。特に、「深い学び」の鍵となるのが「見方・考え方」であり、児童生徒が「見方・考え方」を働かせて「深い学び」を実現しているかどうかについて、児童生徒を主語とした授業改善の視点をもつことが大切です。



- （1）学習指導要領の各教科等の目標と「見方・考え方」**
まず、学習指導要領の教科等の目標に「見方・考え方」を働かせることで、教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものが三つの柱に基づき整理されるとともに、「見方・考え方」も教科等ごとに整理された。「見方・考え方」は、「各教科等を学ぶこと」のとされ、その教科等の教育と社会をつなぐ、「見方・考え方」は、「各教科等を学ぶこと」のとされ、その教科等の本質、その教科等を学ぶ意義とも重なると言える。子どもたちが大人になって生活していく際にも重要な働きをするものもある。

- （2）授業デザインと「見方・考え方」**
「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を進める際には、子どもたちの「見方・考え方」を働かせる授業に迫ることが、教師に期待されている。

- （3）学習評価と「見方・考え方」**
いよいよ、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を示すが、当該教科等における主要な「見方・考え方」を例示したもの（※3）である。なお、各教科等の解説において示してある「見方・考え方」は、当該教科等における主要な「見方・考え方」を例示したもの（※3）である。「見方・考え方」は、各教科等の特質に応じて、单元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、授業改善の在り方を検討することが求められている。

社会的な見方・考え方を働かせるための学習課題や発問と資料活用の在り方

資質・能力の育成を図るには、児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせながら学ぶことが大切です。そのため、視点（見方）や方法（考え方）に基づいた学習課題や発問などを、活用する資料とともに単元のまとまりの中で工夫していきます。

check 学習課題や発問について
児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせるために、**視点や方法に基づいた学習課題や主要な発問を、児童生徒の疑問とともに、単元や本時の流れに沿って考えます。**

[指導事例] 中学校地理的分野
単元：世界の人々の生活と環境

学習課題【全9時間の内の一部】
1 世界各地の人々は、どのような暮らしをしているのか。

<単元の学習課題>
世界各地の人々の生活には、どのような違いが見られるのか。

5 雨が少ない地域の人々は、どのような暮らしをしているのか。

8 宗教は、人々にどのような影響を与えているのか。

9 <単元のまとめ>（めあて）
世界各地の人々の生活の違いを地図やイラストにまとめよう。

重要 単元構想の際は、ねらいの達成に向けて活用する主要な資料も一緒に考えましょう。

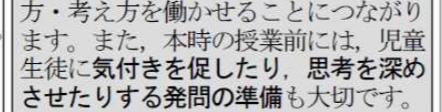
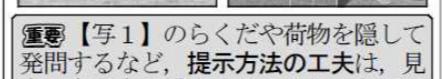
[第5時の展開例] 教師(T)の発問と生徒(S)が見方・考え方を働かせている姿

[課題把握場面]
T：ここはどんな場所でしょうか。【写1】
S1：所々に草のようないいところには木がないし、緑が少ないのに、雨が少ない所です。
S2：らくだがいるから、砂漠のよう雨があり、降らない所だと思います。
S3：雨が少ないと、米や野菜は育つかないと思います。

工夫について記載されている。（※2）

「子どもたちが学習や人生において『見方・考え方』の視点から授業改善をし、子どもたちの『見方・考え方』を働かせる授業に迫ることにこそ、教員の専門性が發揮されることが求められる」とされ、「深い学び」の視点から授業改善をし、子どもたちの『見方・考え方』を働かせる授業に迫ることが、教師に期待されている。

check 資料について
本時を構想する際には、児童生徒に読み取らせる情報や複数の資料を関連付けて考察させる内容などを考えた上で、ねらいの達成に必要な資料を精選します。



重要 【写1】のらくだや荷物を隠して発問するなど、**提示方法の工夫は、見方・考え方を働かせることにつながります**。また、本時の授業前には、児童生徒に気付きを促したり、思考を深めさせたりする発問の準備も大切です。